（別紙4）　　平成　27　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4270202502		
法人名	社会福祉法人　長崎友愛会		
事業所名	ゆうあいホーム　はな畑		
所在地	長崎県　佐世保市　大潟町　152－1		
自己評価作成日	平成　27　年　11月　1日	評価結果市町村受理日	平成　28　年　1　月　21　日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=4270202502-00&PrefCd=42&VersionCd=022

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	平成　27　年　12　月　3　日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

家庭農園では、季節の野菜を作り収穫した野菜を食卓に出す取り組みが好評です。
地域との交流では、地区の夏祭りの参加、婦人部の大正琴慰問、分団との合同避難訓練等の取り組みをしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

当ホームは、系列事業所における定期的な研修会や委員会活動を設けるなど職員の研修体制が充実している。系列事業所職員が2人1組になって巡回訪問し、改善箇所などを当ホームへフィードバックする取組が行われており、改善に向けた意識が高い。職員は細かいことでも日々のアクシデントを積極的に報告して記録に残しており、その情報は日々の介護の実践でも活かせるよう工夫されており、事故を未然に防ぐよう積極的に取り組まれていることが窺える。また、服薬管理も徹底されており、管理体制が整っている。本年4月より現ホーム長体制に変わり、職員間のコミュニケーションをより円滑にするよう職員家族や本部職員の参加も含めた交流を図るなど、職場環境への配慮が窺える。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

ユニット名　A

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念『もっと優しくもっと温かく』を踏まえ、はな畑でも独自の理念『気配りと心配りで心地よく』を掲げフロアの壁に掲示するなど理念の共有に取り組んでいる。月間目標を掲げる等の試みをおこなっている。	当ホーム独自の理念を「気くばりと、心くばりで、心地よく」と掲げ、ホーム内のフロアに掲示し、職員間で共有するよう努めていることが窺える。月ごとに職員で話し合いながら重点目標を立て、実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベントに参加したり　地域の方にホーム行事に参加していただいてる。地域とのつながりを大切にしご利用者が地域の人と交流できるよう支援している。	大潟町内会に加入し、同町の夏祭りなどに参加している。今季は当ホーム駐車場で夏祭りを開催し、婦人会や子供会、老人会などと交流を図っている。慰問での大正琴を通じた交流もある。また、特別支援学校のインターンシップの受け入れも行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	研修で認知症サポーター養成講座をテーマとしご家族や地域の方の参加を呼び掛けた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に開催している運営推進会議では地域やご家族他事業所地域包括の方に参加して頂き、ホームでの取り組みや利用状況等を報告し意見や要望をいただきサービスの向上につなげている。	運営推進会議のメンバーには、家族代表・町内会・民生委員・包括支援センター・他のグループホーム職員等が出席されており、意見交換を行いサービスに活かせるよう努めていることが窺える。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活福祉課や地域包括センターの方とは、日頃から連絡をとりお互いに協力しあえる関係となっている。	入居者の状況に応じて地域包括支援センターや生活福祉課、社会福祉協議会などと協力するよう努めている。本年7月にはグループホーム協議会を通じた認知症サポーター養成講座を開催し、家族や地域の方への参加を促すなどの取組を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止マニュアルを置きいつでも見る事ができる。ホーム会議で勉強会をおこなったり法人内外の研修等にも参加し拘束をしないケアの実践につなげている。玄関の施錠は防犯の意味以外にはかけていない。	身体拘束をしないことを原則にしており、直近の状況においても身体拘束を実施した入居者はいない。職員に対しては、入職時に身体拘束について研修する機会を設けるほか、定期的な研修においても学ぶ機会がある。職員はスピーチロックについても身体拘束に該当すると理解している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	長崎県身体拘束廃止推進要請研修に参加し会議で勉強会を行った。日頃より入浴更衣の際身体に痣等がないかボディチェックを行ってる。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内の研修で学ぶ機会はあったが今のところ該当者はおられず活用していない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約等の重要事項は、文書及び口頭にて説明を行いご利用者、ご家族にご理解納得して頂いたうえで署名捺印を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人本部事務長、運営推進役が運営推進会議に出席し、ご家族代表から意見を聞き運営に反映させている。	毎月の家族訪問時や運営推進会議のほか入居者の誕生会や各種行事の際には家族から意見や要望を聞くように努めている。「はな畑新聞」をキーパーソンの方へ送り、ホームの情報を伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月代表者も出席するホーム長会議の際に、各ホームの近況報告を行いながら、意見交換を行っている。職員会議には可能な）限り本部事務長が参加し職員に対して要望など聞くようにしている。	管理者は介護現場における日々の状況について報告を受け、会議を通じて現場の声を反映するよう努めている。現管理者体制に変わり職員間のコミュニケーションをより円滑にするよう職員家族や本部職員の参加も含めた交流を行い、職場環境の改善へ向けて配慮が窺える。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に自己評価を行い人事考課へ反映するようにし、必要時に応じて面談も実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の法人内部研修や外部の研修会への参加を促進し、また介護福祉士、介護支援専門員等の資格取得を支援しており、それらを賞与手当にも反映させて考慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度にいたっては、佐世保市GH連絡協議会のブロック長として、研修会の構成から運営まで行っており、そのような活動のなかで他事業者との交流も深まった。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用前に、ご利用者・ご家族と面談を行い情報を収集している。そして職員間でその情報を共有し、ご利用者本位のサービス提供を努めて行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記同様に入居後も密に連携を行って随時相談に応じている。ご家族の立場にたって検討することも重要だと考えており、不安を取り除き、要望に応えられるよう全員で取り組んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者、ご家族からの相談を随時受付けており、 介護サービスを説明する際には他の事業所の紹介も行いながら、必要とされてるサービスを選択してもらうように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が一方的に全部を介助して行ってしまうのではなく、残存能力を活かして、家事活動などをご利用者と一緒に行ってもらいながら、共同生活の場という意識をもって行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事への参加を募ったり、身の回りの必要なものや好まれるものを持参してもらったりと連携を密に行うように努め、ご利用者との関係を断ち切らないように配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力を得ながら、個別の外出支援をもうけたり、行事などの際には馴染みのある場所へでかけるようにしている。	入居者の要望にも配慮しながら花見や外食する機会を設けるなど支援している。理美容については、2カ月に1回理容師が訪問し支援している。また美容室へ家族が連れて行く場合もある。入居者の宗教にも配慮されており、現在も牧師の訪問がある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	普段過ごされる座席などの配置を検討したり、職員が間に入って仲間づくりができるようにレクレーション等などを工夫して行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院で退居された方へのお見舞いや、転居された方への面会を行いながら、生活のペースが継続できるようにフォローしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	重度の認知症の方には、特にこれまでの生活・職歴などを十分に配慮しながら、望まれるであろうというケアを行い、日々の気づきをもとに検討しながら行うように努めている。	その方に応じて歩行介助で九九を唱えたり昔の歌を一緒に唄うなど、入居者の背景に応じた支援が窺える。週1回火曜日に法人の音楽療法の担当職員が訪問し、支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に面談を行い、これまでの生活について調査し、なじみの生活が継続できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全員で、ご利用者の状態をよく観察し、情報を共有するように努め、アセスメント他の計画作成業務に関与するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネージャーはケアカンファレンスのなかで進行役に徹するようにし、職員の意見や気づきを出来る限り収集するように努めながら計画作成を行っている。	フェイスシートに入所までの経緯を記入し、担当職員も関わりながら入居者の情報を把握し、日々の状態についても職員間で共有して介護計画の立案に活かしている。行政の集団指導により、介護計画書には本年4月の改訂にあわせた記載があり、医師等の専門的な意見についても介護計画に反映されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録とは別に、「アセスメント要約」や申し送りノートに気づきを記入し、カンファレンスなどの際には、それらを振り返り意見交換を行うようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設の小規模多機能ホームとの交流会や音楽療法の先生を定期的に招く等、既存のサービス以外のことも行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	学校・消防・警察との連携が思い当たるが、密接には関われていない。現在は行えていないが、地区文化センターなどへのお出かけ支援なども行いたい。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者やご家族の馴染みのかかりつけ医があれば希望に沿って支援しているがそうでない場合当事業所の主治医にお願いしている。	訪問看護を利用して対応されている。往診は2名の医師による月2回の訪問があり、内1名は個別の往診がある。皮膚科医や歯科医の往診もある。協力医以外の受診は家族が対応している。受診の情報は、変化があった場合は家族へ伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週木曜の訪問看護ステーションの訪問の際ご利用者の状況を報告、相談し助言を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医と入院可能な病院との提携が整っておりスムーズに入院ができるまたソーシャルワーカーとの情報交換もできております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの指針を作成しご家族と主治医　事業所との意思統一を図り　2名の方の看取りを行った。	入居時には看取りの指針を説明すると共に実際に重度化した場合にも再度説明し、その時々に応じて柔軟に対応するよう努めている。系列事業所の看取り事例発表会などを活かすなど、内部研修を活用されており、今後のチームケアに期待が持てる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防避難訓練の際、救命講習AEDの使い方も学び内外の研修に参加し急変時の対応等を学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	消防署立会いのもと防災訓練を実施している。その際　防災時の避難場所に近隣の方の駐車場や公民館を使用できる様にしている。	昼夜想定の消防訓練を年2回、消防署の立ち会いのもとに行っている。地域の消防団の協力のほか近隣住民には駐車場を一時借りるなど協力関係を築いている。災害時における受け入れ先が9事業所と充実している。	行政に確認して当該地区のハザードマップについては入手しておくことが望ましい。また、避難時には入居者が避難したことが一目で分かるよう居室出入口への今後の工夫に期待したい。利用者情報一覧表には入居者の車イスや杖等の使用の有無を記載しておくことが望ましい。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの個性や好みの理解に努めて関わり、声かけなどの接し方や見守り・介助の方法等に配慮している。	プライバシーに配慮し、写真を撮る場合や掲載する場合も同意を得るようにしている。入居者に合わせた言葉かけに配慮するよう努めている。入浴時に本人の意向に沿い、必要な方は同性介助を行うよう配慮されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事や入浴、排泄等の日常の介助の際においても、声かけを優しく行うようにし、「脱施設ケア」を目指して努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	あくまでもご利用者主体の介護を目指しながら、その人らしい生活を家庭的な雰囲気のもとで支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節感を意識しつつ、ご利用者が好まれる服装ができるようにオシャレを楽しむ支援や整容に注意してケアしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	自ら進んで、下膳などを手伝ってくださるご利用者もいらっしゃり、食事での関わりは重要視している。	食事は手料理で、薄味で味付けされており、入居者に合わせた支援がなされている。つわなど季節の食事について一緒に作ったり洗いもの手伝ったりと、入居者の場面づくりを支援している。残食を記録し、主治医にも報告し指示を仰ぐようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の記載や水分摂取が少ない方の摂取量が把握し、補給できるように水分チェック表を活用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア誘導、介助が必要な方への部分介助などを徹底して行っており、義歯の消毒を毎晩行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握しトイレ誘導声かけをしている。また夜はリハパンツでも日中は布パンツにはき換る支援をしている。	排泄チェック表に記録した上で、食事と排泄が総合的に把握できるよう工夫が窺える。基本的にトイレで排泄できるよう誘導し支援している。現在、昼間でのおむつ使用者はいない。また、トイレの位置が分からない方もいない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事、おやつ以外にこまめな水分補給を心がけ、また排便状態に合わせ飲み物を変え便秘の予防に心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの要望に応じたサービスを提供している。また入浴剤を使い温泉気分を楽しんで頂く。	毎日湯は沸かしている。入居者は3日に1回の頻度で入浴している。本人本位に対応するよう努められており、希望に応じた入浴ができるよう支援している。滅菌の浴槽マットを導入している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室内の温度、乾燥に気を配り空調の調整をしている。また体調に合わせ休息、臥床していただく。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ホームで決めている服薬の仕方にに沿った支援をおこなってる。また頓服　便調整の薬は主治医の指導　確認をとり飲ませている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割楽しみはケアプランに入れ込みご利用者ができる家事活動、レクを通して楽しく過ごして行けるよう支援してる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご近所の馴染みの店に買い物にお連れしたり　外食や買い物などご利用者が食べたい物　買いたいものをご家族承諾の上お連れしてる。	近隣の公園や中庭へ散歩する機会がある。重度化した方については、行事においてマイクロバス等を使用し、入居者の状態に配慮しながら家族の方も一緒に同行するなど外出する機会につながるよう支援している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持されてる方もおり　見守り声かけで支払をされている方もいま。また支払の際に財布を渡し支払ができるよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に使えます。番号を押せない方がいれば職員が変わってかけてさしあげる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室では、個々の生活に気を付けその方が好む空間を提供している。共同の空間では居心地良く清潔な空間をつくる工夫をしている。	共用空間には入居者の写真や作ったものなどほか、季節感のあるものが飾られている。また、採光もよく、トイレや浴室なども不快な臭いなどはない。入居者は思いおもいに過ごされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者の相性などを考慮し座る席にはかなり気を使い楽しく過ごせる空間　居場所作くりをしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具　馴染みの品等　ご利用者ご家族の意向を聞き心地よく生活しやすい環境になるよう支援している。ご家族の急な宿泊にも対応できるよう簡易ベット等の準備もできている。	居室への持ち込みについては特に制限を設けていない。簡易ベッド等を保管し、入居者家族の急な宿泊に対応できるよう配慮している。一方、清掃は毎日実施されているものの一部に居室には埃などが見受けられた。	居室の清掃状況も含めエアコンの埃も定期的にチェックすると共に、見当識にも配慮して居室内のカレンダーもチェックすることが望まれる。現在の清掃体制を検討し、入居者がより居心地よく過ごせる居室となるよう配慮することを希望する。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口にはその方の状態に応じてご利用者が迷う事がないよう表札を準備し　トイレ、風呂場にも同じように表示している。ホーム内はすべてバリヤフリーで廊下には手摺を設け転倒防止　残存機能を活用して頂くようにしている。		

自己評価および外部評価結果

ユニット名　B

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念『もっと優しくもっと温かく』を踏まえ、はな畑でも独自の理念『気配りと心配りで心地よく』を掲げフロアの壁に掲示するなど理念の共有に取り組んでいる。月間目標を掲げる等の試みをおこなっている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベントに参加したり　地域の方にホーム行事に参加していただいてる。地域とのつながりを大切にしご利用者が地域の人と交流できるよう支援している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	研修で認知症サポーター養成講座をテーマとしご家族や地域の方の参加を呼び掛けた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に開催している運営推進会議では地域やご家族他事業所地域包括の方に参加して頂き、ホームでの取り組みや利用状況等を報告し意見や要望をいただきサービスの向上につなげている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活福祉課や地域包括センターの方とは、日頃から連絡をとりお互いに協力しあえる関係となっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止マニュアルを置きいつでも見る事ができる。ホーム会議で勉強会をおこなったり法人内外の研修等にも参加し拘束をしないケアの実践につなげている。玄関の施錠は防犯の意味以外にはかけていない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	長崎県身体拘束廃止推進要請研修に参加し会議で勉強会を行った。日頃より入浴更衣の際身体に痣等がないかボディチェックを行ってる。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内の研修で学ぶ機会はあったが今のところ該当者はおられず活用していない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約等の重要事項は、文書及び口頭にて説明を行いご利用者、ご家族にご理解納得して頂いたうえで署名捺印を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人本部事務長、運営推進役が運営推進会議に出席し、ご家族代表から意見を聞き運営に反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月代表者も出席するホーム長会議の際に、各ホームの近況報告を行いながら、意見交換を行っている。職員会議には可能な）限り本部事務長が参加し職員に対して要望など聞くようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に自己評価を行い人事考課へ反映するようにし、必要時に応じて面談も実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の法人内部研修や外部の研修会への参加を促進し、また介護福祉士、介護支援専門員等の資格取得を支援しており、それらを賞与手当にも反映させて考慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度にいたっては、佐世保市GH連絡協議会のブロック長として、研修会の構成から運営まで行っており、そのような活動のなかで他事業者との交流も深まった。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用前に、ご利用者・ご家族と面談を行い情報を収集している。そして職員間でその情報を共有し、ご利用者本位のサービス提供を努めて行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記同様に入居後も密に連携を行って随時相談に応じている。ご家族の立場にたって検討することも重要だと考えており、不安を取り除き、要望に応えられるよう全員で取り組んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者、ご家族からの相談を随時受付けており、 介護サービスを説明する際には他の事業所の紹介も行いながら、必要とされてるサービスを選択してもらうように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が一方的に全部を介助して行ってしまうのではなく、残存能力を活かして、家事活動などをご利用者と一緒に行ってもらいながら、共同生活の場という意識をもって行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事への参加を募ったり、身の回りの必要なものや好まれるものを持参してもらったりと連携を密に行うように努め、ご利用者との関係を断ち切らないように配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力を得ながら、個別の外出支援をもうけたり、行事などの際には馴染みのある場所へでかけるようにしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	普段過ごされる座席などの配置を検討したり、職員が間に入って仲間づくりができるようにレクレーション等などを工夫して行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院で退居された方へのお見舞いや、転居された方への面会を行いながら、生活のペースが継続できるようにフォローしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	重度の認知症の方には、特にこれまでの生活・職歴などを十分に配慮しながら、望まれるであろうというケアを行い、日々の気づきをもとに検討しながら行うように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に面談を行い、これまでの生活について調査し、なじみの生活が継続できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全員で、ご利用者の状態をよく観察し、情報を共有するように努め、アセスメント他の計画作成業務に関与するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネージャーはケアカンファレンスのなかで進行役に徹するようにし、職員の意見や気づきを出来る限り収集するように努めながら計画作成を行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録とは別に、「アセスメント要約」や申し送りノートに気づきを記入し、カンファレンスなどの際には、それらを振り返り意見交換を行うようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設の小規模多機能ホームとの交流会や音楽療法の先生を定期的に招く等、既存のサービス以外のことも行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	学校・消防・警察との連携が思い当たるが、密接には関われていない。現在は行えていないが、地区文化センターなどへのお出かけ支援なども行いたい。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者やご家族の馴染みのかかりつけ医があれば希望に沿って支援しているがそうでない場合当事業所の主治医にお願いしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週木曜の訪問看護ステーションの訪問の際ご利用者の状況を報告、相談し助言を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医と入院可能な病院との提携が整っておりスムーズに入院ができるまたソーシャルワーカーとの情報交換もできております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの指針を作成しご家族と主治医　事業所との意思統一を図り　2名の方の看取りを行った。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防避難訓練の際、救命講習AEDの使い方も学び内外の研修に参加し急変時の対応等を学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	消防署立会いのもと防災訓練を実施している。その際　防災時の避難場所に近隣の方の駐車場や公民館を使用できる様にしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの個性や好みの理解に努めて関わり、声かけなどの接し方や見守り・介助の方法等に配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事や入浴、排泄等の日常の介助の際においても、声かけを優しく行うようにし、「脱施設ケア」を目指して努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	あくまでもご利用者主体の介護を目指しながら、その人らしい生活を家庭的な雰囲気のもとで支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節感を意識しつつ、ご利用者が好まれる服装ができるようにオシャレを楽しむ支援や整容に注意してケアしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	自ら進んで、下膳などを手伝ってくださるご利用者もいらっしゃり、食事での関わりは重要視している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の記載や水分摂取が少ない方の摂取量が把握し、補給できるように水分チェック表を活用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア誘導、介助が必要な方への部分介助などを徹底して行っており、義歯の消毒を毎晩行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握しトイレ誘導声かけをしている。また夜はリハパンツでも日中は布パンツにはき換る支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事、おやつ以外にこまめな水分補給を心がけ、また排便状態に合わせ飲み物を変え便秘の予防に心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの要望に応じたサービスを提供している。また入浴剤を使い温泉気分を楽しんで頂く。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室内の温度、乾燥に気を配り空調の調整をしている。また体調に合わせ休息、臥床していただく。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ホームで決めている服薬の仕方にに沿った支援をおこなってる。また頓服　便調整の薬は主治医の指導　確認をとり飲ませている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割楽しみはケアプランに入れ込みご利用者ができる家事活動、レクを通して楽しく過ごして行けるよう支援してる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご近所の馴染みの店に買い物にお連れしたり　外食や買い物などご利用者が食べたい物　買いたいものをご家族承諾の上お連れしてる。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持されてる方もおり　見守り声かけで支払をされている方もいま。また支払の際に財布を渡し支払ができるよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に使えます。番号を押せない方がいれば職員が変わってかけてさしあげる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室では、個々の生活に気を付けその方が好む空間を提供している。共同の空間では居心地良く清潔な空間をつくる工夫をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者の相性などを考慮し座る席にはかなり気を使い楽しく過ごせる空間　居場所作くりをしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具　馴染みの品等　ご利用者ご家族の意向を聞き心地よく生活しやすい環境になるよう支援している。ご家族の急な宿泊にも対応できるよう簡易ベット等の準備もできている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口にはその方の状態に応じてご利用者が迷う事がないよう表札を準備し　トイレ、風呂場にも同じように表示している。ホーム内はすべてバリヤフリーで廊下には手摺を設け転倒防止　残存機能を活用して頂くようにしている。		